

2024年11月19日掲載 カーゴニュース

企業横断型の中継輸送ネットワーク構築へ

大手トラックなど11社が新コンソーシアム

トラック・物流大手など11社は13日、新たな物流コンソーシアム「baton（バトン）」を発足すると発表した。「2024年問題」をはじめ物流業界が直面する課題に対し、企業間の垣根を超えた取り組みを促進する。第1弾として、企業横断型の中継輸送ネットワークを構築すべく、企業間の共創や国・自治体との連携を強化する。



新コンソーシアムには、セイノーホールディングス、第一貨物、トナミ運輸、トランコム、新潟運輸、ハコベル、福山通運、名鉄運輸のほか、東京海上ホールディングス、東京海上スマートモビリティ、東京海上日動火災保険の11社が創立メンバーとして参画。今後も中立・公平・オープンな場として参画企業を広く募っていく。

推進体制は、様々な関係者が集まる場である「全体会」を設け、それぞれの知見や課題を共有。さらに、課題ごとに具体的な解決策などを議論するための「ワーキンググループ（WG）」を設置する。WGでは、中継輸送を実現する上で課題となる運用ルールの策定や中継拠点の確保などの検討を進める。

今後のスケジュールでは、2025年3月までを準備期間に位置づけ、テーマ選定や実行計画の策定、参画企業の受け付けなどを進め、同年4月から本格始動する。運営事務局は東京海上スマートモビリティと東京海上日動火災保険の2社が務める。アドバイザリーメンバーとして、全日本トラック協会の馬渡雅敏副会長、流通経済大学の馬島弘明教授らも参加する。■